

## 発刊によせて

愛知学院大学附属図書館長

野村 瑞 峯

最近、文化財の保存とか自然環境の維持とかが、やかましく云われているが、具眼の人の間ではすでに早くから問題にされていた。こういった見地からして、昭和四十三年に、宗門の名刹正眼寺の住職であった金剛秀一老師と、愛知学院の学監であった成田芳髓師との間で話し合いがまとまり、本学の図書館に正眼寺の古文書類が寄託されることになった。その後、大学当局の理解により「正眼寺文書調査会」が設けられ、以後調査整理が続けられ、昨今になって、大体一段落がついて目録発刊の運びになった。その時は奇しくも正眼寺の開山忌二月二日であった。そこで、その道の専門家である文学博士田島柏堂教授によって「正眼寺の沿革」と「正眼寺文書について」総括的に紹介していただき、宗教法制の面からは法学博士林董一教授に、「江戸時代における正眼寺領」について執筆していただき、更に鈴木鋭彦教授には「離檀神葬祭関連文書について」書いていただいた。これによって多少なりとも世を益するところがあれば幸である。尚、こういった文献は特殊な資料であるため分類、編集の実務を担当された図書館員の労を多とするものである。

昭和四十八年二月二日